



感謝のブループロジェクト in 向陽

PART 2!

御器所学区で始まった「感謝の青いハンカチ」への賛同企画である

【感謝のブループロジェクト in 向陽】

校内を飾るブルーのリボンや寄せ植えも、皆さんだいぶ見慣れてきたころだと思います。張りつめていた気持ちが「ふっ」と緩んでしまいそうな今、新たに意識を保ち続けていただけたらと思い「PART 2!」の発行を決めました！

緊急事態宣言が解除されてから2週間余り。

全国的に新たな感染者数は減少傾向ではあるものの、まだまだ安心して生活できるレベルには至りません。

そんな中、医療従事者の皆さんは家族や自身の生活を犠牲にし、最前線で働いてくれています。しかし、そんな医療従事者やその家族に対しての差別や偏見が今、問題視されています。

- 保育所から「こどもを預けないで」と求められた
- 幼稚園に送迎した際、職業を理由にほかの保護者から心無い言葉を浴びせられた
- 夫が勤務先の会社から「休むように」と言われた
- こどもが学校でいじめにあった

…など、報道されていることは氷山の一角だと言われています。

PTA内での聞き取りでは、現場ではたらく医療従事者の生の声を聞くことができました。

- 第2波を経験している札幌在住の医療従事者は、コロナに対して「怖い」というより「嫌です」と親族に話したそうです。得体の知れない感染症に対し、街も医療現場も疲弊した様子がかがいが知れます。
- 看護師である委員の友人は「現場はマスコミが騒ぐほどではないが、影響はある。マスクなどの備品不足が一番の苦勞」と話されたそう。偏見は少なからずあり、皆不安がっているとのこと。

問題となっていることが、テレビの中だけのことではないのがわかります。

誰かがやらなければならない仕事…感染への不安は医療従事者もそうでない人も同じです。働くだけでも不安なのに、働くためにこどもを預けることが許されない…などの苦勞を科してしまう…身も心も疲弊したコロナ禍、誰もが自分のことが優先になってしまうことの表れだと感じています。

●私たちにできること！
こういった情報に見て見ぬふりをしてしまうことなく、
周囲と話し合い、共有することも、
最前線で働く人たちへのエールとなることでしょう！

思いやりをもって周囲を見渡せるよう、
心身ともに健康でありたいと深く思います。

